第六講・詩

１、詩の種類

①形式上の分類

・定型詩…きまった音数をくり返す詩。

・自由詩…一行の音数にきまりがなく、自由な形で書かれた詩。

②用語上の分類

・文語詩…昔の言葉（文語）で書かれた詩。

・口語詩…現在使われている言葉（口語）で書かれた詩。

２、詩の主な表現技法

①比喩………ものごとをほかのものにたとえる技法。

②擬人法……人間でないものを人間のようにたとえる技法。

③くり返し…同じ言葉をくり返す技法。

④倒置法……言葉の順序を逆にして、意味を強める技法。

⑤体言止め…行の終わりを名詞（ものやことがらの名前）で止める技法。

⑥呼びかけ表現

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ふるさと

室生(むろう)　犀星(さいせい)

雪あたたかくとけにけり
しとしとしとと融(と)けゆけり
ひとりつつしみふかく
やわらかく
木の芽に息をふきかけり
もえよ
[a]のうすみどり
もえよ
[a]のうすみどり

---

(1)　この詩の(あ)形式と、(い)使われている言葉（用語）を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　定型詩　　**イ**　自由詩
ウ　文語詩　　**エ**　口語(こうご)詩

(あ)［　　］　(い)［　　］

(2)　二か所の[a]に共通して入る言葉を、詩の中から三字以内でさがし、ぬき出しなさい。

［　　｜　　｜　　］

(3)　この詩は何をよんだ詩ですか。［　］にあてはまる漢字一字を、それぞれ考えて答えなさい。

［　　］から［　　］への移(うつ)り変わり。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

時

堀口(ほりぐち)　大學(だいがく)

よろこびの時は短(みじ)かい
夢(ゆめ)よりもなおも儚(はか)ない
束(つか)の間もこれより長い

よろこびを時が持ち去る
かなしみを時が置き去る

かくてこの心に残る
かなしみが心にしみる
何時(いつ)までも　明日(あす)も明後日(あさって)も

(1)　この詩に用いられている表現技法(ひょうげんぎほう)を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　体言止め　　イ　くり返し
ウ　倒置法(とうちほう)　　エ　比喩(ひゆ)

(2)　――線「心に残る」とありますが、何が心に残るのですか。詩の中から五字以内でさがし、ぬき出しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

準備(じゅんび)

高階(たかしな)　杞一(きいち)

1
[A]のではない
①準備をしているのだ
飛び立っていくための

2
[B]のではない
②測(はか)ろうとしているのだ
風の向きや速さを

3
初めての位置
初めての高さを
こどもたちよ

4
おそれてはいけない
この世のどんなものもみな
「初めて」から出発するのだから

5
落ちることにより
初めてほんとうの高さがわかる
うかぶことにより
初めて
雲の悲しみがわかる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) A・B に入る言葉としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　怒(おこ)っている　　イ　見ている
ウ　待っている　　エ　笑っている

A [ ]
B [ ]

(2) ――線①と――線②で使われている表現技法(ひょうげんぎほう)を答えなさい。

[ ]

(3) 第3連と第4連の説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　同じような表現をならべることで、まとまりごとにリズムを出している。
イ　同じ言葉をくり返すことで、「初めて」の大切さを強調している。
ウ　行末を名詞(めいし)で終えることで、出発の風景に余情(よじょう)をあたえている。
エ　伝えたい相手を明らかにし、「初めて」をおそれてはいけないというメッセージを発している。

[ ] [ ]

(4) この詩の中から、擬人法(ぎじんほう)が使われている行を一か所さがし、ぬき出しなさい。

[ ]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

忘(わす)れもの

高田(たかだ)　敏子(としこ)

1

入道雲にのって
夏休みはいってしまった
「サヨナラ」のかわりに
すばらしい夕立をふりまいて

2

けさ　空はまっさお
木々の葉の一枚(いちまい)一枚が
あたらしい光とあいさつをかわしている

3

だがキミ！　夏休みよ
もう一度　もどってこないかな
忘れものをとりにさ

4

迷子(まいご)のセミ
さびしそうな麦わら帽子(ぼうし)
それから　ぼくの耳に
くっついてはなれない波の音

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ——線「『サヨナラ』のかわりに」とありますが、どのようなことが起きたのですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、詩の中からぬき出しなさい。

□□□の終わりの日に、□□がふったということ。

(2) 第４連の説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　夏休みが置いていった「忘れもの」を表している。

イ　夏休みといっしょに去っていった夏の思い出を表している。

ウ　人間でないものを人間のようにたとえて表現(ひょうげん)している。

エ　よびかけの表現を使って、作者の気持ちをうったえている。

□　□

(3) この詩の主題としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　たくさんの思い出ができた夏休みのすばらしさ。

イ　夏休みが終わるころの空や木々などの風景の美しさ。

ウ　夏休みが終わることへのどうしようもないさびしさ。

エ　夏休みがもどってこないことへのいらだち。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講・確認（かくにん）テスト

次の□に「性」「然」「的」「化」を入れて熟語（じゅくご）を作りなさい。

１　強□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

２　一本□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

３　自□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

４　映画□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

５　感受□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　詩

一題目

(1) あア
いウ
(2) 木の芽
(3) 冬・春

二題目

(1) ウ
(2) かなしみ

三題目

(1) Aウ
Bイ
(2) 倒置法
(3) イ・エ(順不同)
(4) 雲の悲しみがわかる

四題目

(1) 夏休み・夕立
(2) ア・ウ(順不同)
(3) ウ

〈確認テストの解答〉

１　エ　２　エ　３　イ　４　エ　５　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。